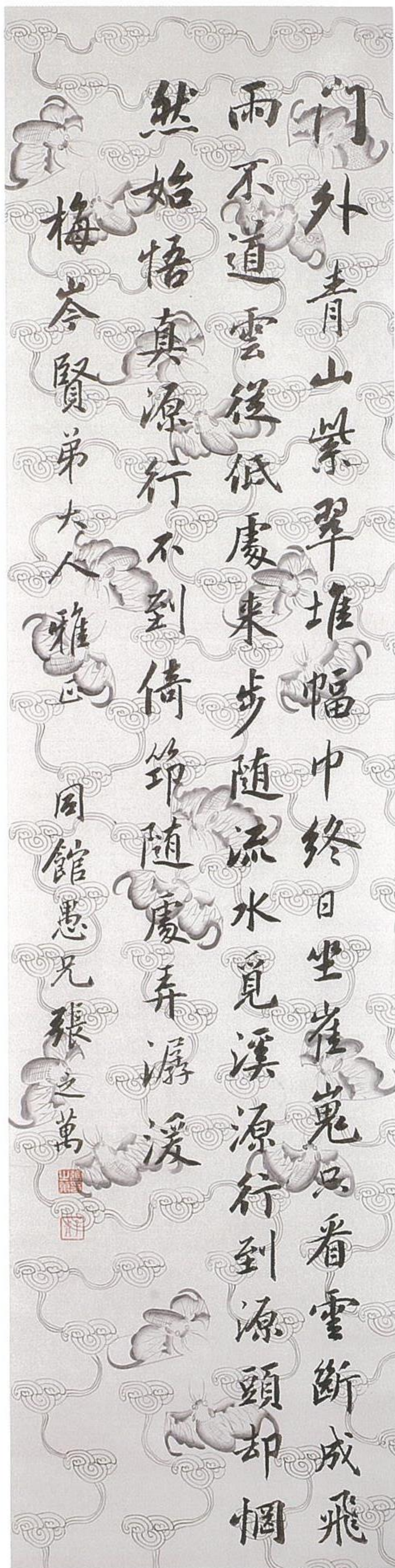


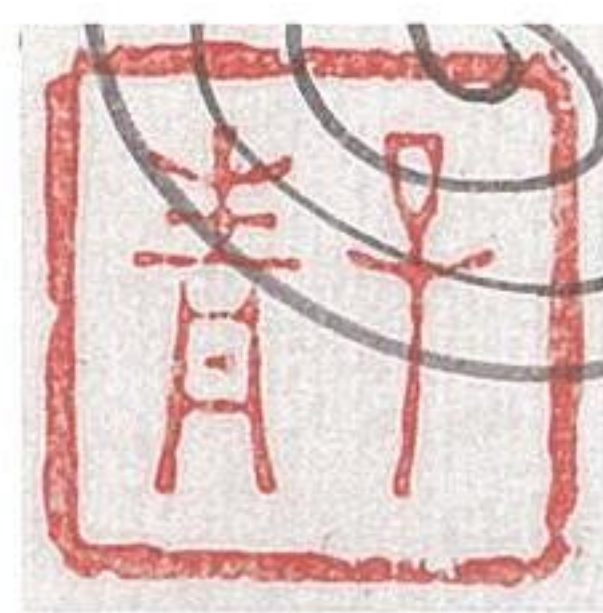
1、行書朱熹偶題軸

張之万

(一八二一—一八九七) 清時代後期
蝙蝠雲紋蠟箋墨書 一五九・〇×四〇・〇cm



張之万印
(白文方印)
2.4 × 2.5cm



子青
(朱文方印)
2.4 × 2.5cm

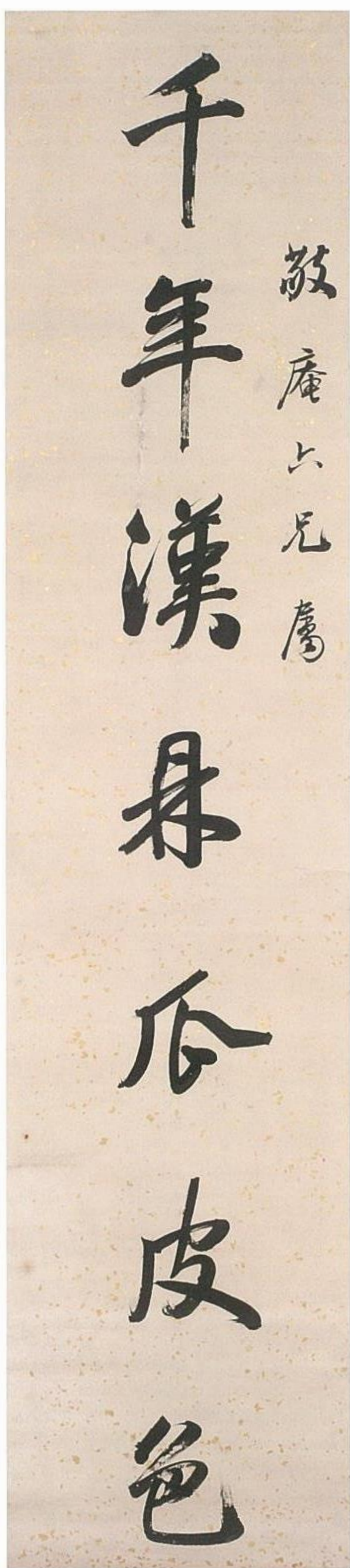
張之万は、字は子青、鹽坡と号した。河北省南皮の人。道光二十七年(一八四七)の進士(状元)。軍機大臣、吏部尚書、大学士らの要職を歴任し、政治家として活躍する他、画家としても名を馳せ、特に王翬に影響を受けた山水画を得意とした。書は、晋唐の書法を学んだ。

本作のような小楷の作品は張之万の得意とするところで、整然とした美しい書に蝙蝠雲紋の綺麗な蠟箋が華を添える。贈り主へ込めた気持ちが見るものに伝わる、清々しい作品である。

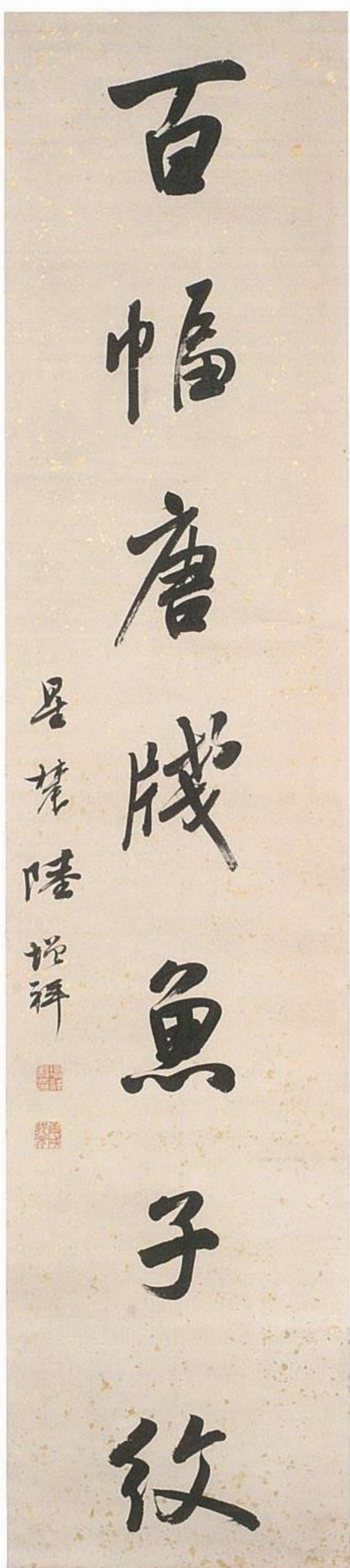
2、行書七言對聯

陸增祥

(一八二六—一八八二) 清時代後期
冷金箋墨書 一三一・五×二九・〇cm



增祥私印
(白文方印)
2.1 × 2.1cm



庚戌状元
(朱文方印)
2.2 × 2.2cm

陸增祥は、字は星槎、江蘇省太倉の人。道光三十年(一八五〇)の進士(状元)。金石学の大家であり、嘉慶期の王昶の『金石萃編』を次ぎ補訂した『八瓊室金石補正』を著した。また所蔵の漢魏六朝の博硯を拓本に採り、『三百甄録』を著した。

本作の上聯「千年漢鼎」、下聯「百幅唐牋」はともに金石学の大家らしい文言を選んで、書自体は帖学に根差した学者らしい実直な書きぶりが魅力である。